

令和3年度第2回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：令和3年11月9日（火）15時～16時50分

場所：高松市立みんなの病院 みんなのホール

（オンラインによる開催）

【出席者】

（委員） 会長 谷田 一久（株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表）
副会長 伊藤 輝一（一般社団法人高松市医師会 会長）
安藤 幸代（公益社団法人香川県看護協会 会長）
門脇 則光（国立大学法人 香川大学医学部附属病院 病院長）
二島 多恵（公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表）
藤田 徳子（株式会社フェアリー・テイル 代表取締役）
和田 頼知（和田公認会計士事務所 公認会計士）

（事務局）市職員 30名

（傍聴者）なし

開会 15:00～

1 病院事業管理者挨拶

本日は、ご多用中にも関わらず、令和3年度第2回高松市立病院を良くする会に御出席を賜り、感謝している。また、日頃より御助言、御指導いただき、重ねてお礼申しあげたい。

御存知のように、現在、新型コロナウイルス感染症は、全国同様、香川県においても、やや落ち着きを取り戻しているところである。ただ、第6波到来の可能性があるという専門家の意見もあり、当院においては、厳しく感染対策を継続しているところである。このような状況を踏まえ、今回もWEBでの開催とさせていただいた。対面でないことで、深い話がしづらいが、何卒よろしくお願ひしたい。

なお、今回から田宮委員に替わり、香川大学医学部附属病院長に御就任された、門脇教授にも委員としてご出席いただいている。門脇教授におかれては、今後ともよろしくお願ひしたい。

さて、今回の高松市立病院を良くする会は、前半は前回の自己評価について、委員の方々からの総合評価をいただくことになっている。また、後半は、現在まだ国から新公立病院改革ガイドラインが発表されていない状況ではあるが、第4次（令和3年から5年まで）「高松市病院事業経営健全化計画」を策定した。新病院開院後は順調に滑り出したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なかなか軌道に乗ってこないといった状況である。しかし、将来に渡り、病院を安定的に維持、継続して運営していくためにも、今回の「経営健全化計画」について、御意見、御助言、御指導をいただきたいと思う。

本日は、よろしくお願ひしたい。

2 議題

(ア) 高松市病院事業経営健全化計画（令和2年度実績）に係る総括評価について 経営企画課長 説明

(会長)

令和2年度実績に係る総括評価について、前回の高松市立病院を良くする会において、高松市医師会長をはじめ、委員の皆さんから、新型コロナウイルス感染症に対応するみんなの病院へ感謝の気持ちを述べられており、総括としての評価が、すでになされているような印象を受けた。個別な内容についても、概ね良好な評価がなされている。やや遅れていると評価された項目もあったが、それは、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での実施が制限されているような項目であり、むしろ制限すべき項目であったと思われるが、その辺の意見を委員の皆さんにお聞きしたい。

(委員)

新型コロナウイルス感染症に関して、みんなの病院は、非常に多くの患者を受け入れ、尽力されていたと聞いている。個人的には、病院全体がまとまったような印象を受けている。病院全体の連携強化について、今後も継続して取り組まれない。

(委員)

みんなの病院におかれては、新型コロナウイルス感染拡大で大変な中、尽力していただき感謝の気持ちでいっぱいである。今後は、PET-CT、ダヴィンチの有効活用、稼働率向上に期待している。

(委員)

コロナ禍という非常事態の中、通常医療が提供できたことは、医療従事者の皆さんの貢献度が高かったと思う。そういった意味で、今回、目標値に達していない項目については、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと好意的に捉えている。ただ、塩江分院の医療の質の確保に向けた取組の中で、評価が低くなっている項目が多くあるが、それは、新型コロナウイルス感染症の影響によるものなのか、過疎化によるものなのか。医療の質の確保については、病院機能の核となることから、今後、高い評価となるよう取り組まれない。

(塩江分院事務局長)

ご指摘いただいた医療の質の確保に向けた取組のうち、地域医療の推進についての項目で、やや遅れていると評価した項目があったが、現状として、訪問診療件数、訪問リハビリテーション件数等に関連する患者数が減少傾向にある中、地域医療を守ることを目標に取り組んでいるものの、結果として目標値よりも全てが下回ったことでその評価とした。

(会長)

目標値を下回ったことで低い評価としたとのことだが、今回においては外部要因が多くあったことから、このような評価とした経緯を本文中に一言付け加えられてはどうか。

(委員)

まず、みんなの病院は、新型コロナウイルス感染症について、非常に尽力されていることに感謝したい。前回の本会議において、新型コロナウイルス緊急包括支援補助金を受けたことで黒字化したという状況をお聞きしたが、補助金を受けても黒字化していない病院が多くある。みんなの病院におかれては、今後、新型コロナウイルス感染症を理由にできないような医療を提供することを期待する。塩江分院に関しても、今後、無床化として施設整備されるとのことだが、地域住民にとっては受け入れがたいことである。地域住民の理解を得られるよう、みんなの病院との連携強化、在宅医療にさらに注力されたい。

(会長)

新型コロナウイルス緊急包括支援補助金について、補助金の主旨は、新型コロナウイルス感染患者の受け入れに対する準備と、実際の診療をすることに対し、最大のパフォーマンスを示していることである。新型コロナウイルス感染患者を受け入れるための人材、研修、資材等、様々な費用がかかっているが、資料に表現されていないものもある。会計的に政策事業と通常医療を分けることができない状況もあるので、直結して補助金を受けたことで黒字になったということではない。通常医療に注力されたことも大きな要因である。その辺はミスリードにならないように留意されたい。

(委員)

みんなの病院におかれては、新型コロナウイルス感染症について、非常に多くの患者を受け入れていただき感謝している。実際に、通常診療をかなり制限されたことと察する。今後、厳しい状況が予想されるが、維持できることを期待する。

(委員)

メディカルスタッフの確保について、新型コロナウイルス感染症の影響により、認定看護師の確保が難しかったようだが、来年度以降の養成計画はどのようなになっているのか。

(みんなの病院看護局長)

認定看護師養成も含め、その他の資格取得についても、積極的に取り組みたいと考えているが、認定看護師については、予算の関係もあることから、優先順位を決めて取り組みたい。ただ、現在は、認定施設が香川県外となるため、家庭の事情に配慮しつつ進めてまいりたい。今後、感染管理認定施設が香川県内にできるという話もあり、受講しやすい環境となるため利用したい。感染管理分野については、優先順位も高いと考えている。

(委員)

感染管理認定施設については、香川大学医学部の御協力を得て、再来年を目途に計画している。また、救急車の受け入れ件数が多いことから、感染管理認定看護師に加え、クリニカルケアも重要度が高いため、養成を期待する。

(委員)

医療安全の強化について、針刺事故件数が依然多いが、対策は立てているのか。

(みんなの病院看護局長)

医療安全については、ICU が指導、周知を担っているが、今回の針刺事故に関しては、特定の職員が起こしたこともあり、その者の指導、確認を行ったところである。その他の事例に関しては、各医療局で指導を仰いでいる状況である。

(委員)

針刺事故については、病院の評価として重要度が高いものとなるため、今後とも引き続き注力されたい。

(会長)

委員会の総括評価として、やや遅れていると評価された項目については、今回はそのままの評価とし、本文中に、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面に制限があることで、実施できなかった項目があると追記してほしい。委員会としての総括評価は、御提案いただいたとおり、概ね良好としたい。

(イ) 次期経営健全化計画の策定について

経営企画課長 説明

(委員)

次期経営健全化計画について、この計画によると、第4次（令和3年から5年）の間、収益的収支は黒字にはならない想定だが、黒字にするための対策が不明瞭である。入院単価もほぼ同額維持、塩江分院においては、訪問診療、訪問看護件数もほとんど変化がない。一般会計負担金を前提に、更なる黒字化計画を期待する。また、令和5年の計画を例に挙げると、経常収入は約100億円、純損失は2億円未満と、赤字額は僅か2%である。病院全体で2%効率化を達成すれば黒字化するということである。目指すべきは2%の壁をどう乗り越えるかではないか。

(会長)

今回、新型コロナウイルス感染拡大を経験して分かったことは、極めて政策的なはっきりしたことを行えば、税の投入と相まって経営が健全化するということだ。正に、令和2年度は、みんなの病院において、公立病院の経営健全化を絵にかいたような1年であった。政策に対し、職員が一丸となり、通常医療と感染医療について展開するという非常に重要な経験をされた。重要なのは、市民一人当たりどれだけの税金を投入され、その成果として、どう政策費を使ったかということに繋げるような説明が必要であろう。いかに市民の安心や安全に繋げ、なおかつ、結果として最終的な資金収支の均衡に結びついているのか。政策的な医療と通常医療、保険診療との間の関係がどうなっているのかといったところが説明されていないがゆえに、努力の状況が見えてこない。その辺りをご説明いただきたい。

(病院事業管理者)

資金収支の均衡について、収益的収支を黒字化するに当たり、当院も他の自治体病院と同様、慢性的な固定費の高さが問題となっている。将来的に固定費削減について、対策を検討したいと考えている。今回の計画は、現在の経営状況を踏まえ、慎重に検討し、実現可能と思われる範囲で策定した。今後、高松市民の要求に応えられることに粛々と取り組み、黒字化を目指したい。

(委員)

資料の表現について、様々な立場の方の目に触れることを念頭に、文言は、みんなの病院のロゴマークのとおり、ハートフルなものとなるよう工夫されたい。特に概要版については、抽出するキーワードが一目で伝わるように改良されたい。

(会長)

資料について、理念と具体的な文言との違和感、伝えきれていないという指摘だが、是非対応されたい。

(委員)

塩江分院の患者送迎バスの運行について、今後開始するということか。

(塩江分院事務局長)

患者送迎バスの運行については現行でも行っており、へき地で高齢者のご自宅付近まで運行している。悪天候等で運行を中止しない等、サービスを低下しないような形での運行を目指した計画としている。

(委員)

第4次経営健全化計画における重点取組項目に、地域包括ケア病棟の積極的な活用とあるが、みんなの病院におかれては、広い意味で、高松市民の最後の砦となることを目指してほしい。

高松市民に寄り添い、密着した医療を目指すことに注力し、香川県立中央病院、高松赤十字病院と差別化を図り、その取り組みを積極的に発信してほしい。みんなの病院の名に相応しいものとなるよう期待する。

(病院事業管理者)

現在、正に高松市民のためにということを中心に、退院支援、介護等、病院全体で取り組んでいるところである。急性期ではあるが、今後、そちらにも注力したいと考えている。

(委員)

経営健全化について、現場の医師たちに伝わっていないことが懸念される。今後、現場職員の意識改革が必要である。

(会長)

今後、いかに高松市民、開業医との繋がりを作っていくかで、結果として増患、機能に見合った利用の仕方に繋がっていく。職員の意識改革についても、経営理念とどう繋がっているのかが重要であり、また、その理念が維持され続けていく必要がある。意識改革が無駄をなくすことにも繋がる。委員の皆さんからいただいた意見が、計画の中で反映されることで、経営健全化の流れができていくと思う。

(病院事業管理者)

依然厳しい経営状況が続いているが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大では、当院が新型コロナウイルス感染患者に対応し、高松市民のために職員一丸となり努力し、香川県、高松市の中で存在感を増したと実感している。今後も、経営の安定も図りながら、高松市民のために尽力したいと考えている。最後に、職員一同、非常に頑張っていることを申し添えたい。

(会長)

今日は貴重な御意見をいただき感謝している。第4次経営健全化計画については再度見直し、高松市病院事業経営健全化計画（令和2年度実績）に係る総括評価総括については、私の方で修正し、完成させたい。

以上で、令和3年度第2回高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 16:50